

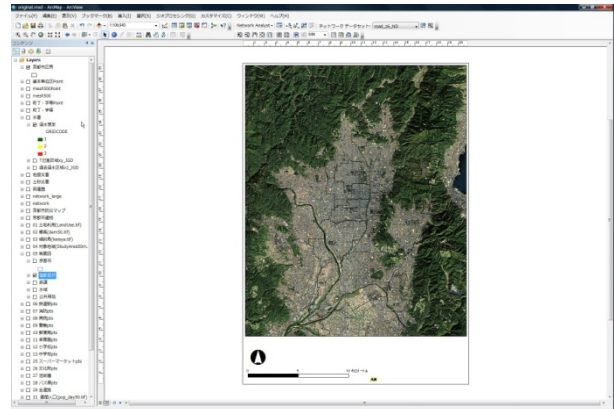
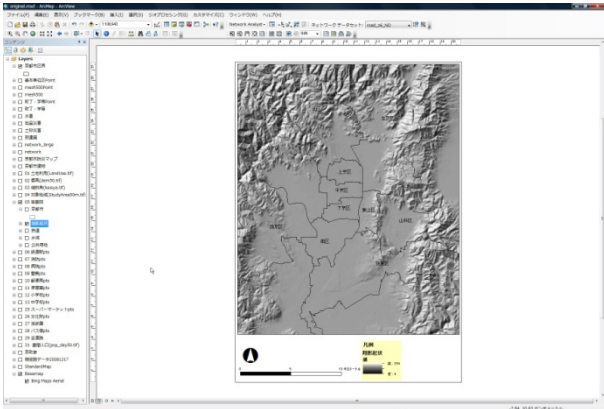
1. 被害想定地域の人口・世帯数の推計

本演習で利用する被害想定.mxd を起動する。

ArcGIS の起動の手順：フォルダ内の被害想定.mxd をダブル・クリックする。

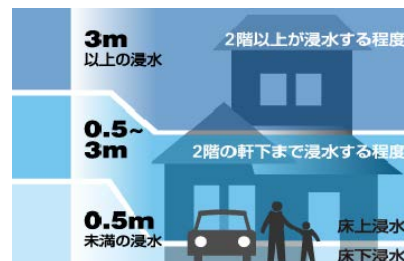
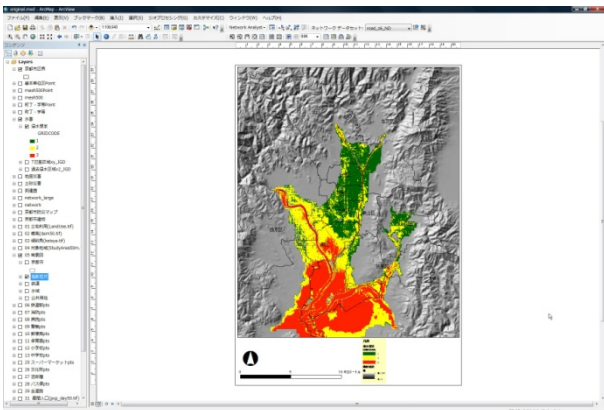
表示範囲の選択：メニューの [ブックマーク] (京都市、京都市中心部)

背景レイヤーの選択：「京都市区堺」と「陰影起伏」にチェックを入れ表示する状態にする。同時に、「Bing MapsAerial」もチェックを入れ表示させる。

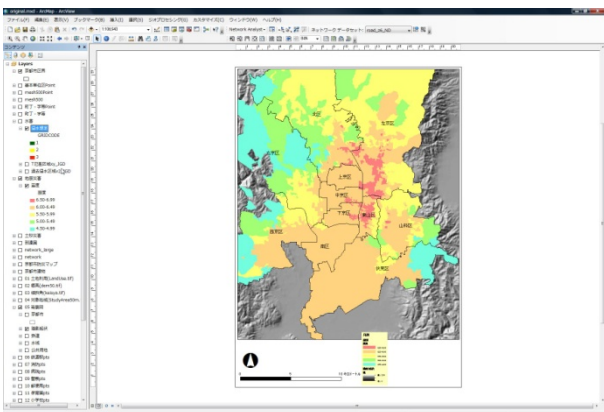


※レイヤの表示順によっては、うまく画面が表示されないこともある。その場合は、レイヤを左クリックしながらドラッグして上方へ移動させる。

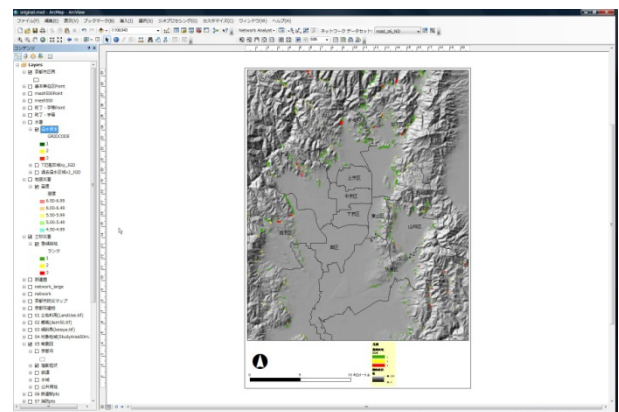
手順 1：被害想定地域を選ぶ



1) 水害 (想定浸水ランク 1-3)



2) 地震災害 (震度)



3) 土砂

手順 2 : 属性検索で被害想定地域を特定する (浸水想定ランク 3 を属性選択する)。

メニューの [選択] → [属性検索] を選ぶと、属性検索ウィンドウが現れる。

① 浸水想定を選択する。

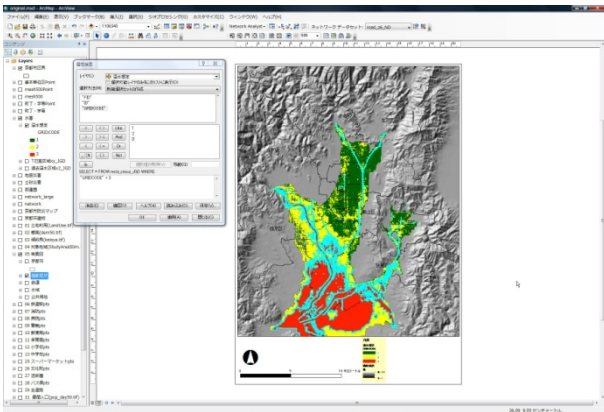
② ランク 1～3 を含むフィールド[GRIDCODE] をクリックする。
下の「SELECT * FROM recla_sinsui_JGD WHERE:」の欄に自動的に「GRIDCODE」が入る。

③ [個別値の取得] をクリックし、個別値「1, 2, 3」を取得する。

④ ランク 3 を特定する式を作成する。
⇒ 「"GRIDCODE" =3」と入力する。

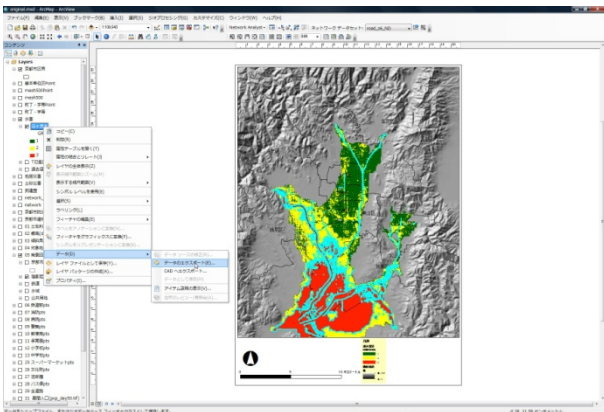
⑤ 「適用」をクリックする。

浸水想定ランク 3 の範囲がハイライトする。



※オプション : 想定浸水ランク 3 のみの新レイヤを作成し保存する。

左のコンテンツの「想定浸水」で右クリックをして、「データ」→「データのエキスポート」



「選択フィーチャ」を選ぶ。

データのエキスポート

エクスポート: 選択フィーチャ

座標系の選択

レイヤのソースデータと同じ座標系

データの座標系

エクスポート時の座標系

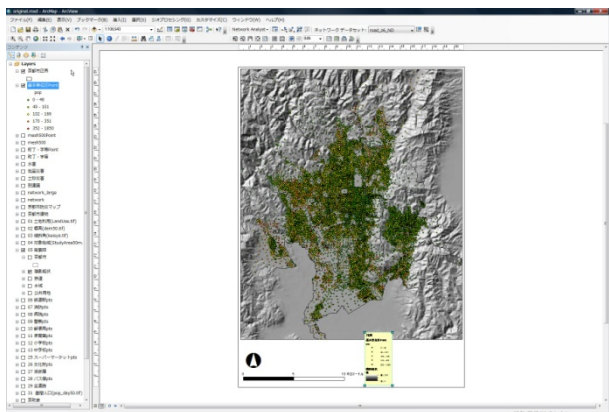
新レイヤの保存先、ファイル名を特定する。

出力フィーチャパス: D:\temp\2011年度GIS研修\想定浸水rank3

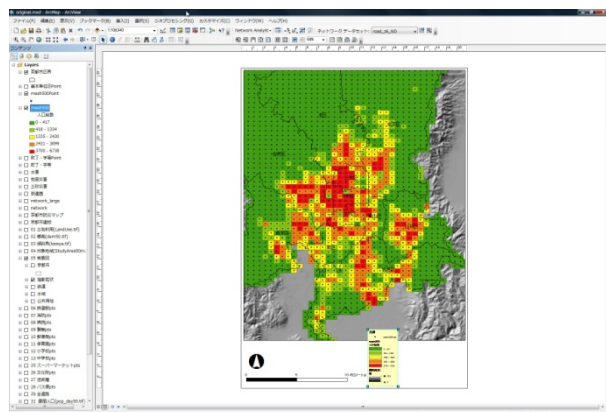
OK キャンセル

[OK]をクリックする。続けて「マップにレイヤとしてエクスポートデータを表示させますか？」などの質問が2つほど続くが、適宜選択をする。

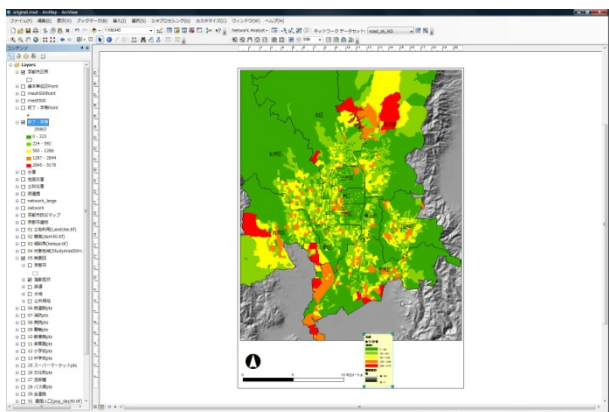
手順3：人口・世帯数の空間単位・属性を設定する（総人口を選択）。



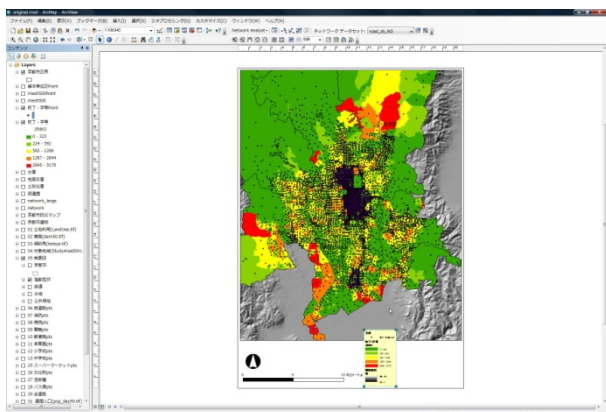
1) レイヤ「基本単位区 point」



2) レイヤ「mesh500」

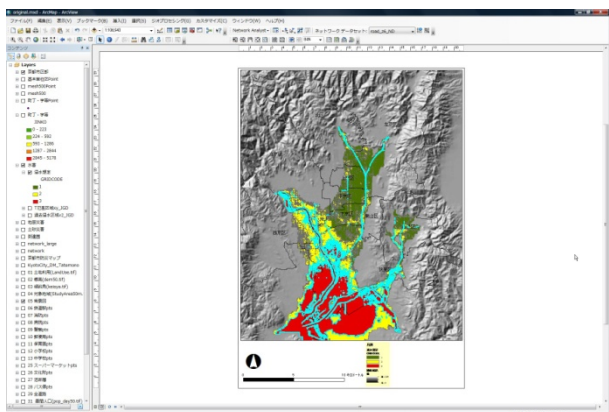


3) レイヤ「町丁・字等」

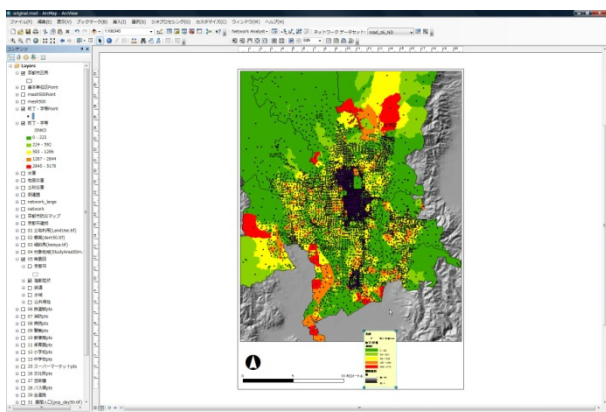


4) レイヤ「町丁・字等(point)」

手順4：空間検索で、被害想定地域と重なる人口・世帯数の空間単位を特定する。



1) ソースレイヤフィーチャ



2) ターゲットレイヤフィーチャ

例：1) ソースレイヤフィーチャ

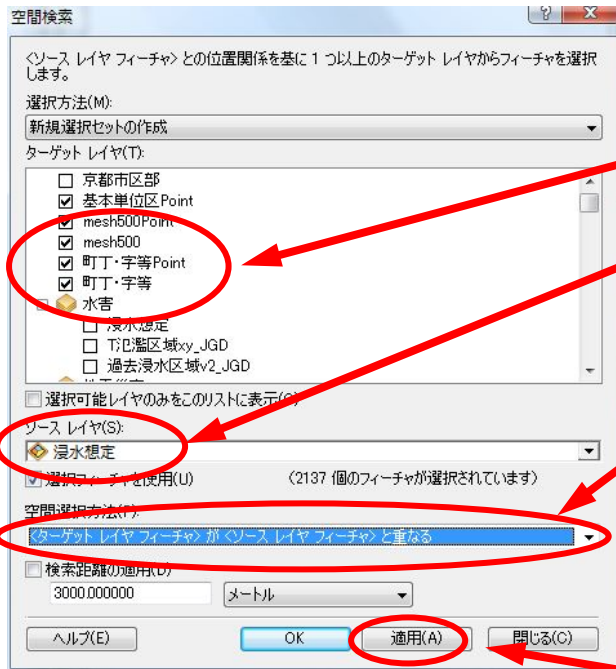
想定浸水のレイヤのうちランク3が選択されたポリゴン（青でハイライトされたポリゴン）

2) ターゲットレイヤフィーチャ

町丁・字等ポリゴン、町丁・字等ポイント

空間選択方法：

＜ターゲットレイヤフィーチャ＞と＜ソースレイヤフィーチャ＞の空間的關係



メニューの [選択] → [空間検索] を選ぶと、空間検索ウィンドウが現れる。

ターゲットレイヤのチェック

ソースレイヤの特定

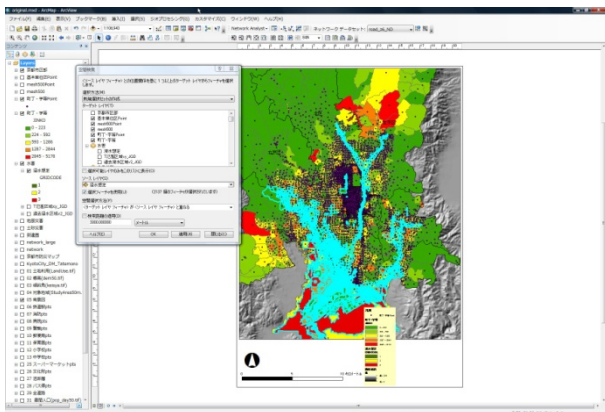
この場合、選択フィーチャ（ランク3）されたフィーチャのみが対象の場合はチェック

空間選択方法の選択：

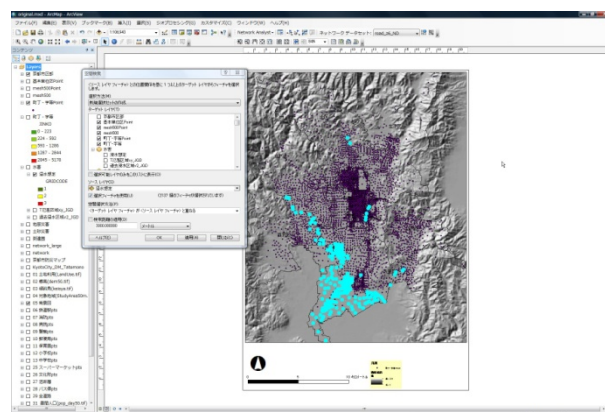
- 1) 重なる
- 2) 含む
- 3) 完全に含む など

適用をクリック

※オプションで想定浸水ランク3のみのレイヤを作成した場合、ソースレイヤを“想定浸水 rank3”とすることができる。



想定浸水ランク3に重なる（少しでも含まれる）町丁・字等が選択されている。



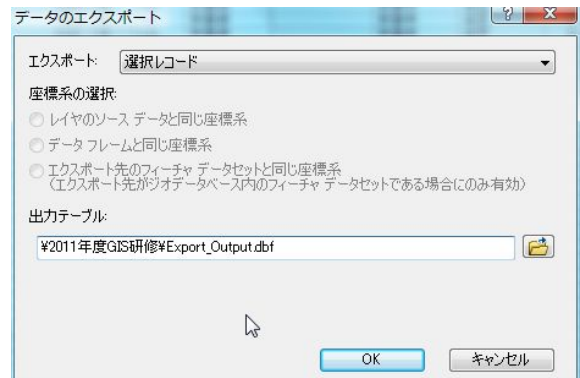
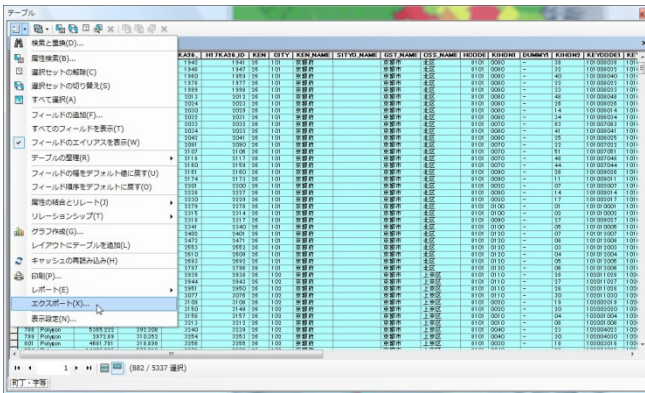
想定浸水ランク3に重なる（完全に重なる）町丁・字等の代表点が選択されている。

手順5：被害想定地域の人口・世帯数の町丁・字等のリスト化

1) Excelで処理

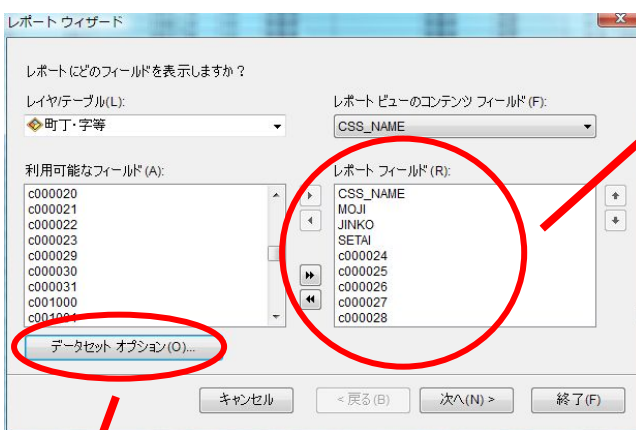
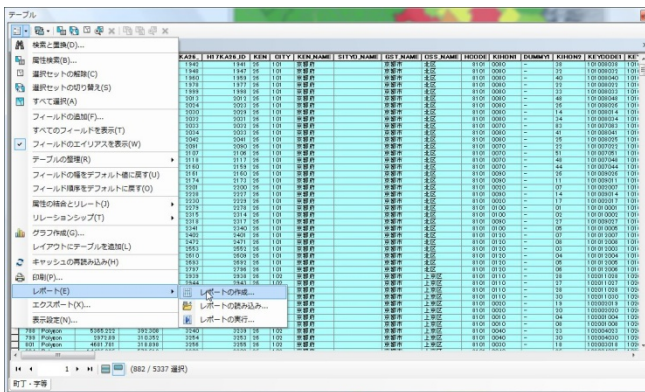
テーブルのメニューの左の「テーブルオプション」→「エクスポート」

(dbf形式でファイル保存)



2) レポートの作成

テーブルのメニューの左の「テーブルオプション」→「レポート」→「レポートの作成」



ここでは、

- 区名
- 町丁・字等名、
- 人口 (JINKO)
- 世帯数 (SETAI)
- 15歳未満人口 (c000024)
- 16-64歳人口 (c000025)
- 65歳以上人口 (c000026)
- 75歳以上人口 (c000027)
- 85歳以上人口 (c000028)



「選択セット」を選択

→この作業以降、レポートウィザードはまだ続きます。